性格診断×蔵書検索　で推しの本発見！！

c 1241089　鈴木美空

×

問題　これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する。

現状　公益文科大学の図書館は蔵書数や本を読む環境は十分に整っていると思うが、その割に利用者が少ないと感じる。私は小説を読むことが趣味なのでよく図書館を利用しているほうだと思うが、私の友人は授業で借りる必要がある場合のみ利用している印象だ。友人がよく借りている本は、英語の授業で読む必要がある英語で書かれた本や、レポートの書き方が記されている本など、楽しんで図書館を利用するというよりかは本を読むことが義務である場合のみ仕方なく利用しているのが現状だ。実際は実用的な本だけではなく小説など娯楽として利用できる本も存在する。このように公益大の図書館の魅力や読書の魅力が十分に伝わっていないと感じる。

課題定義　図書館を利用する全員をユーザーとする。顕在的なニーズは「図書館に自分が読みたくなるような本を置いてほしい」である。このニーズから推察するに、潜在的なニーズは「自分が読みたいジャンルの本がよくわかっていないので知りたい」であると考える。読書が楽しいことだと知っている私は自分が好きなジャンルの本を知っているため本の探し方を知っている。しかしそうでない人、もしくは今まで読書の習慣がなかった人は自分の読書遍歴がないため読書の関心を持たないので、さらに図書館から足が遠のくという悪循環が生まれる。もし自分が読みたいと思える本のジャンル、または本の著者を見つけることができたならば、それを機に今まで読書習慣がなかった人が読書の面白さに気付けるのではないだろうか。

プロトタイプの提案　自分の好きなジャンルを探すために性格診断から好きな本を探せるシステムを提案する。なぜ性格診断を好きなジャンルを見つけるために用いるのかというと大学生などの若い世代は自分に特化した情報が好きだからである。MBTI 診断を知っているだろうか。この性格診断は９３個の質問をもとに 16 個のタイプに分類するものだ。実際私は初対面の人に MBTI の種類を聞いて会話を始めることが多い。そして韓国では合コンのあいさつで MBTI を紹介して自分の性格を相手に簡潔に説明するそうだ。これほど若者に浸透している性格診断を応用して自分が好きな一冊を見つければ、本を読もうと思うきっかけになり図書館を利用する人が増えると考える。ただ、性格で好みの本が確定するわけではないので自分の好みの本が確実に見つけられると言い切れないのがこのシステ

ムの欠点といえる。しかし逆に言えばお気に入りの本を見つけるまで何度も図書館に行きたくなるという考え方もでき、利用したくなるという目的を達成していえる。

おわりに　図書館の利用者を増やすためには読書の面白さを知ってもらう必要があると考える。そのために性格診断によるシステムを提案したが、これはきっかけに過ぎないため現在行っている図書館スタンプラリーやスマホでできる蔵書検索機能などを今よりもっと大々的にアピールすることで利用者は増えていくのではないだろうか。